

令和4年度 妙高市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和4年12月23日(金) 開会:10時35分 閉会:11時55分

2. 場 所 妙高市役所本庁4階 402会議室

3. 出席者

| | | |
|-------|----------|-------|
| (構成員) | 妙高市長 | 城戸 陽二 |
| | 妙高市教育委員会 | |
| | 教育長 | 川上 晃 |
| | 教育長職務代理者 | 高澤 誠一 |
| | 教育委員 | 小嶋久美子 |
| | 教育委員 | 近藤 縁 |
| | 教育委員 | 小島 武夫 |

(事務局関係)

吉越総務課長、松橋こども教育課長、平井生涯学習課長
江口こども教育課参事、長谷川総務課長補佐、小林こども教育課長補佐
余野生涯学習課長補佐兼図書館整備室長、丸山こども教育課指導主事
阿部総務法制係長

(傍聴者) 上越タイムス社

4. 会議内容

1 開 会 10時35分

2 あいさつ

○吉越総務課長

ただいまから令和4年度妙高市総合教育会議を開催いたします。全体の進行を務めさせていただきます、総務課長の吉越です。よろしくお願いいたします。それでは、会議次第に基づき進行させていただきます。はじめに市長があいさつを申し上げます。城戸市長、よろしくお願いいたします。

○城戸市長

会議の開催にあたり一言ごあいさつさせていただきます。本日は、年度末のお忙しい中、教育委員の皆様にはお集まりいただきまして大変ありがとうございます。

日頃から皆様には大変ご尽力をいただいております。妙高市の教育施策を中心に大変感謝しているところでございます。この度、市長に就任させていただきまして、今回の選挙の中でも言わせていただいておりますが、これからの妙高市をつくる上で、やはり人を育てるまちづ

くりというところに、重点力を入れていきたいと思っております。従来から、川上教育長の方から、教育、子どものことが最も大切になりますよということを現役時代である職員時代から、言われ続けて参りまして、まさにその通りだなというふうに思っているところであります。

今日、この総合教育会議を開催するにあたって、やはり妙高市がこれから進めていく教育に関して、私自身もう一度勉強させていただきたいと思っておりますし、これからの子どもたちに、何が必要かということを改めて考えさせていただきたいと思っております。

教育長と、2人で話した中では、小さな殻に閉じこもらない子ども、市外に出て、県外に出て、さらには、国外に出て活躍いただける子どもをつくっていくことが妙高にとっては何よりだという話をさせていただいております。

今日その意味で、イェナプランでありますとか、GIGAスクールさらには、子どもだけでなく、妙高市民すべてが将来を通じて、学びということの楽しさを理解していただけるまなびの杜、この3つについて皆様と意見交換をさせていただければというふうに思っているところでございます。

時間が限られている中でございますが、忌憚のないご意見いただきまして、有意義な会議とさせていただければと思っております。今日はよろしく願いいたします。

○吉越総務課長

ありがとうございました。

続きまして、川上教育長より挨拶をお願いいたします。

○川上教育長

皆さんこんにちは。教育委員さん本当に今日はお忙しい中ありがとうございました。感謝申し上げます。私が教育長に着任して5年目に入っていますが、令和2年から令和6年までの第4次総合教育基本計画、それがおよそ3年終わりました。あと残すところ2年になります。

こども教育課、そして生涯学習課管轄の中での総合教育基本計画ですが、順調に進んでおります。私の思いの中で、およそもう8割方が達成されているんじゃないかなと思っています。それも、教育委員の皆様方、それから市長さん、関係部署の皆様方の多大な協力のおかげだと思っています。

今市長さんからありがたいお言葉をいただきました。県を作る、国を作る、世界を作る、そして妙高市を作るのはやっぱり子ども、これからの子どもなんだろうというふうに思っています。その子どものたちのために何ができるか、どういう質の高い教育ができるかといったようなところの部分がすごく大きな課題になっているんだろうなと思っております。

ぜひ城戸市長からもご指導いただきながら、そして教育委員の皆様、関係部署の皆様方からいろんなご意見をいただきながら、より一層いいものにしていきたいと思っておりますので、今日の機会が、ある意味すごく重要でもあると思っております。よろしく願いいたします。

3 自己紹介

○吉越総務課長

ありがとうございました。本日は本年度最初の会議でございますので、委員の皆様より順番

に自己紹介をお願いします。

○高澤教育長職務代理者

教育委員の高澤誠一です。2期目に入っております。よろしくお願いいたします。

○小嶋委員

教育委員の小嶋久美子と申します。同じく2期目です。よろしくお願いいたします。

○近藤委員

教育委員の近藤縁です。同じく2期目です。よろしくお願いいたします。

○小島委員

教育委員の小島でございます。2年目が終わりました。よろしくどうぞお願いいたします。

○吉越総務課長

ありがとうございました。次に、事務局側の自己紹介をさせていただきます。
改めまして総務課長の吉越です。よろしくお願いいたします。

○松橋こども教育課長

教育委員会こども教育課長の松橋です。よろしくお願いいたします。

○平井生涯学習課長

生涯学習課長の平井です。よろしくお願いいたします。

○こども教育課江口参事

こども教育課参事をしております江口です。よろしくお願いいたします。

○生涯学習課余野課長補佐

生涯学習課長補佐の余野です。よろしくお願いいたします。

○こども教育課小林課長補佐

こども教育課長補佐の小林です。よろしくお願いいたします。

○こども教育課丸山指導主事

こども教育課指導主事の丸山文雄です。よろしくお願いいたします。

○総務課長谷川総務課長補佐

総務課長補佐の長谷川と申します。よろしくお願いいたします。

○吉越総務課長

以上の事務局で、本日の会議を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは協議事項に入らせていただきます。当会議の議長につきましては、会議設置規則第4条の規定により、市長が議長を務めることとなっておりますので、このあとの進行につきましては、市長からお願いいたします。

4 協議事項

○城戸市長

それでは早速ではありますが、今日3つの協議をお願いしたいと思っております、1 協議事項の1番目、イエナプラン教育についての協議に入らせていただきます。

進め方としまして初めに事務局からご説明をいただいた後、皆様からご意見をいただきたいというふうに考えております。それでは最初のイエナプラン教育について、こども教育課から説明をお願いします。

○松橋こども教育課長

お疲れ様です。皆様にご協議いただく「イエナプラン教育」につきまして、資料に沿って概要をご説明させていただきます。

令和2年度、3年度の小・中学校の新学習指導要領の改訂のポイントとして、「主体的・対話的で深い学び」が挙げられました。それを実現するためには、子どもたちの主体性や自立性、自己調整力の育成、集団の中で自身と他者の考えを組み合わせ、より良い学びを生み出す「個別最適な学び」「協働的な学び」が重要であり、そのための手法の一つに、「イエナプラン教育」が挙げられます。妙高市では、令和3年度から新井南小学校で、このイエナプラン教育に取り組んでいます。それでは、お手元の資料の3ページをご覧ください。イエナプラン教育の特徴ですが、まず（1）異年齢の学級編成では、1から3年生、4から6年生の3学年ごとに縦割りで編成することにより、多様な個性や発達の違いを受け入れると共に、学年を超えた学び合いが可能となります。次に（2）4つの基本活動ですが、クラスの出来事や振り返りなどをサークルになって話しやすい状態で行う「対話」、休憩や自由に活動する「遊び」、「仕事」いわゆる学習については、ブロックアワーという自身で計画的に行う自立学習、基礎学習と、グループで教科横断的、学年横断的に学ぶワールドオリエンテーションの2種類があります。4つ目が、行事や学びのプレゼンなどの「催し」になります。また、健常児も障がい児も分け隔てなく一緒に学ぶインクルーシブな教育を目指します。次に4ページをご覧ください。「妙高型イエナプラン教育」のコンセプト（概念）については、イエナプラン教育の良いところを取り入れた妙高独自の教育の構築を図ります。次に5ページの「学校環境にかかる基本的な捉え」ですが、新井南小学校の教育目標、重点目標の達成に向けて取り組むべきイエナプラン教育の理念と具体的な活動を挙げ、その活動を個別最適な学びと協働的な学びで支えるというものです。次の6ページは、子どもたちの探究学習や教科横断的な学びを支援するために、学校運営協議会や地域活動人材コーディネーター、地域の「緩やかなネットワーク」との連携による「地域学校協働活動推進事業」のイメージを示しています。最後に7ページの新井南小学校のこれまでの取組みについてですが、令和7年度の実施を目指して、令和3年度は、PTAや市内の小・

中・総合支援学校保護者、地元地域への周知、研修会等を行い、本年度はサークルでの対話や、ワールドオリエンテーション（総合的な学習の時間）などに取り組むとともに、研修や先進校への視察を行い、教員の共通理解を図っています。お手元の「新井南小イエナプラン教育メソッド通信」に理念や今年度の活動状況が記載されていますので、併せてご覧ください。

「イエナプラン教育」についての説明は以上でございます。

○神戸市長

今ほど説明をいただきましたけれども、イエナプラン教育について、皆様からご意見をお願いできればと思っておりますが、まず私から、私もこの教育について、先日も丸山先生のお話を聞かせていただいて、子どもの自主性とかこれからの個別最適化という中では、大変理解もしているんですけど、何となく自分で思っているのは、新井南小学校から始めて、すべての学校へという将来的な構想をいっていると思いますけど、まず南小学校だけで始めて、転入とか転出など変更の時に、こういう教育に、ずっと他の学校の子が入ってこられるのか、また転出された時に、通常の学校に行って、教育になじめるのか。

子どもは順応性があると思いますけど、その心配と、後は学校の先生も、公立学校で始められるってということなので、先生の異動があって、こういう教育にスムーズに移行できるのかっていう意見を持ちまして、まずそこを聞きたいと思います。

○川上教育長

補足は丸山指導主事からやってもらうことにして、私が最初にこのイエナプラン教育に目をつけたということは先ほど課長が説明した通りでございます。今市長さんから言われた指摘は最もなんですね。まず一つ目、この妙高型イエナプラン教育が今南小学校でやっているこのスタイルがすべての学校でやれるかっというたらやれないと思っています。縦割りの3学年といたったようなことになると、大きな学校は非常に教室が必要になってきますし、空間もそうですけど、それに対応する職員も必要になってくるということで、大きな学校には、クリアしなきゃいけない課題がいくつかあると思っています。

実際、私どもが見に行った広島市の福山市の常石小学校は、120人規模の学校でしたけれども、1から3、4から6の縦割りクラスを作って、確実に進めておりました。ですので、そのぐらいの規模までは、クリアできるかなと思っていますが、それ以上の学校については、先ほど課長から説明があったように、4ページにある妙高型イエナプラン教育のコンセプトの中にある、その学校独自のスタイルでいいんだよと、形は決まってない、イエナプランの良さを、何か一つエキスをとって、自分の学校の教育方針と絡めてやってみて欲しいというのが妙高型のイエナプラン教育です。ですので、そこら辺は各学校の校長先生方、職員の方々の思いをやっぱり一つにしなきゃいけないと思いますので、十分検討していただいて、じゃあ令和何年度から全部移行するんだということは、まだ指定していません。研究を進めていく中で、モデル校を見ながら、自分の学校はこのことぐらいは、このことはできそうだなっていうことで進めてもいいかなと思っています。具体例を挙げますと妙高高原中学校は、すでにイエナプラン教育、独自のイエナプラン教育を組みたいと言っています。それは数学でしたね。数学の教科で自由進度学習といって、自分で計画してどんどんどんどん学習していくっていうような形

を導入したいということで今検討に入っています。それで結構だと思っています。数学でやったら理科でもできるんじゃないかってなったら理科でもやればいいと思いますので、どんどん研究していく中で、最終的には、旧態依然の一斉授業を何とか打破していける、そして子どもたちが自分で計画して、自分で活動していける、そしてわからないところはしっかり先生がサポートしているという形を作っていきたいと思います。

じゃあ、転校したらどうなるか、正直最初は苦しいかもしれません。出て行ったよりも入ってきた人の方が大変かもしれません。そこで学んだ人、子どもたちが出ていくと、一斉授業にも対応できるし、自分でどんどん学習したいと思います。そこら辺は今 iPad 等々の端末もありますので、自分で学習をしたり家庭学習でどんどん進めていきたいといったようなこともできます。そこら辺は心配ないと思います。逆に入ってきた子どもさんたちは、慣れるのに時間がかかるかもしれません。ですが、子どもってやはり順応性が高いので、周りの子どもたちがしっかりそれをフォローして、支えてくれるはずです。そういう集団を作りたいと思っていますので、その中で先生方もきちっとフォローしておけば、私はそんなに時間をかけなくても大丈夫だと思っています。あとは丸山指導主事よろしくお願いします。

○丸山指導主事

実は2校、視察に行っていますがその2校とも希望して入学してくるお子さん型の学校です。常石ともに学園もそうですし、大日向小学校もそうです。保護者、あるいは子どもが希望して入ってきている学校と違って、今回妙高市で取り組んでいることは、中にはもしかしたら希望していない子どももいるかもしれません。ですが、地域や入ってくる保護者、子どもにもしっかりと周知し、その良さを十分くんでいただいた上で、子どもたちとともに、先ほど教育長が話したとおり、子どもの順応性というのは本当に長けたものありますので、縦割りの中で、学校全体で、フォロー、伴走していきたいと考えています。

教員については、ご存知のとおり、現在、公募制でぜひイエナプラン教育に取り組みたいという職員が入っております。その職員に感化され周りの職員も、あっ、こんなことができるんだなっていうような、確かな手応えを感じながら、今、二学期、そして三学期と進んで形になっていますので、その手応えをぜひ市内の先生方に周知したり、併せてその先生方が異動になっても、妙高型イエナプラン教育で学んだメソッドを、自校でまた発揮していただくことが、妙高市全体の教育の向上につながると考えております。以上です。

○高澤委員

一番不安に思っていたのは、保護者の意識、変革と教員の意識、変革だと思うんですね。今まで保護者も一斉授業をずっと子どもの時からやっけていまして、教員自体もですね、一斉学習をやっけてきておりますので、同じクラスでの学習の練り上げとか、人間関係とかそういうのを含めてですね、授業の中で生徒指導をやっけていくんだというふうな形で授業を受けてますので、教員自体も意識を変革していくのはちょっと大変だろうなと思っております。

視察された2校についてはですね、もう保護者が十分イエナプランの良さを分かっけていて、自分の子どもはこっちの方の学校がいいんだなっていうことで、保護者は十分理解してやっけてきている訳ですが、妙高市については、そういう保護者はいないと思いますし、また中学校に

行けば、入試があるじゃないかっていうふうなことも不安材料にもあるんじゃないかなと感じます。そこら辺を保護者にまず、良さなり、子どもたちにとって一番いい学びなんだということを理解してもらっていか、周知していってもらおうとか、そういう方向を十分取らないと、不安が広まっていくのかなというふうに感じます。

教員についてはこれはもう、妙高市に來ればイエナプランをやるんだよっていう意識を持って入ってきていただくのが一番良いのかなと思うんですが、そこら辺をまた参事に、一生懸命頑張ってもらいたいと思っていますが。教員も意識変革で今までの集団での一斉学習を乗り越えていくんだっていうところをですね、良さを分かってもらい、これやっぱり新井南小学校をモデルとしてずっと広めていかなきゃいけないのかなと、そんなふうに感じました。

○小嶋委員

まずこちらの、先ほどの資料にもありますけども、今、前を向いて一斉授業を行っているのは、北朝鮮と中国とロシアの農村部とアフリカ南部だけってところは、本当に衝撃的な事実だと思うんです。それと同じことを日本がやってるということを考えると、本当に私たちはこれから意識を変えていかなければいけないとは思っているものの、やはりイエナプラン教育と聞いたときに、何となく名前がよさそう、未来型な感じがして、よさそうと思う一方で、よくわからないし、本当にやっていけるんだろうか、受験に対応していけるんだろうか、自分たちの子どもが適応していけるんだろうかっていう不安は当然、先生方も子どもたちも親も持つと思います。そのためにはやっぱりまず知らないといけないと思うので、これからどんどん、いろんな形で保護者に知らせていったり、先生たちに発信していったり、当然研修とか、一番いいのは、実際に見てみるっていうことが一番の納得感が得られる方法なのかなと思います。

後はこの前、南小学校での研修、勉強会に参加させていただいて、一番思ったのが、新しいことをするとき、どうしようという不安や、こういう時どうしたらいいんだろうと、問題ばかりにちょっと目が行きがちですけども、そうではなくて、それをやった先には、こういった素晴らしい子どもの未来像があるとか、こういった教育ができるっていう、明るい未来を想像したときに、やっぱりワクワクしますよねって言われて、そのワクワクが本当に大事だなと思いました。そういうふうにするためには、教職員はこうしたらいいんじゃないかとか、親はこうしたらいいんじゃないかっていうプラスの発想で、みんながそちらの方向に向かっていけるように、そういったことをこれからどんどん作っていけると、この妙高型のイエナプランっていうのは、すごくこの地域の、とてもいい案で教育財産というか、子どもたちを作っていく、良い教育になっていくんじゃないかなというふうに考えております。

○近藤委員

私も最初聞いたときにはこのイエナプラン教育、本当に飛びつきたくくなるような制度というか、とても魅力を感じ、いろいろ話も聞きまして、この間の南小の研修会にも行ってきて、保護者の方ともお話をすることができて、保護者の生の意見を聞きたいと思っていたところ、本人は全然否定はしていないと聞きました。ただ地域のおじいちゃんおばあちゃんも含めて何をやっているかわからないと、やっぱりそこが一番不安だと思います。本当に新しいことやってもらうのはいいんだけど、何をやっているのかわからないという、要するに地域を巻き込ん

でないのではないかと、保護者も含めてですけど、もう少しアピールや発信をどんどんして
いって地域の人も合わせて子どもたちを育てていくっていうふうな方向でちゃんと明確に示し
ていけば、皆さんにも喜ばれるし、とても未来が明るく見えてくると思うんです。あと、先生
ともお話することがあったんですけども、大日向の方に研修に行かれてその前はなかなか行か
れなくて行けないままに準備ということで、できるのか本当に不安しかないって言われたん
ですけど、1校研修に行かれて、随分肩の荷がおりたと、自分たちでやることをやればいい
というか、やれるところからやればいいというのが見えたし、質問することによってその他の
今の先生方に、自分の悩んでいたことがちっぽけなことだっていうのもわかったという声を聞
きました。ぜひ研修は定期的というか、先生たちの不安がなくなるぐらいに、新しい先生た
ちにもどんどん、受けられるような制度を作っていただいて、妙高型のイエナプランが確実に、
どの先生がこられても、対応できるというふうになっていけば、本当にすばらしい、これから
どんどん子どもも少なくなってくるので、それこそ普通の複式でやるよりは、こういうイエ
ナプラン型教育というのは良いことだと思うので、進めていって欲しいと思っています。

○小島委員

私は今、妙高地域に生活しているんですけども、地域はご承知のように子どもが非常に少
なくなっていて、やっぱり子どもの育ちの中で、異年齢での環境の中で育つことは非常に
教育上大事だと思っているんですけども、残念ながら今そういうふうな、地域の中での状況
にないわけですから、特に小規模校については、イエナプランという異年齢での関わり、これ
は非常に大きな部分があるんじゃないかなと思っています。ここに非常に期待を寄せており
ます。

それとやはり私の方もそうなんですけれども、どういうものなのかっていうのは、実際問題
見てなかったものですから、非常に状況としてわかりづかったんですが、11月25日に、
南小の研修会がありまして、初めて参加させていただきました。やはり先生方の戸惑いっての
はどうなのかなっていうのが気になっていたんですけども、担当されました公募でこられた
先生だと思えるんですけども、非常にいきいきとですね、わかりやすく説明してくれましたね。
我々みたいな素人みたいなものでも、非常にわかりやすく、入りやすい説明でした。ああいう
先生方がきっちりこれから関わっていけばですね、非常に良い状況が生まれるんじゃないか
なというふうに思っております。ただ研修の中で、いろいろ皆さん方とコミュニケーションし
たときには、中学校に行くとうなるんだろうねっていう話があったんですけども、さっき
のお話を聞けば、中学校でもそろそろ手を挙げるっていうところもあるようですから、しっか
り地域にPR、あるいは保護者の皆さん方にも周知をしていけばですね、必ず皆さん方から認
知いただける教育方法だというふうに思っております。

○城戸市長

私もどちらかというときさっき言われたように、これやったらこういうことが起きるかなみた
いな、ちょっとマイナス思考的なところがあるのを、やはり意識を変えて、そして良くして、
これからの明るい未来を考えながら、という事だろうと思っています。

実は先日東京で、いろんな企業の方との集まりのときに、妙高の教育の話になって、このイ

エナプランの話をしていただいたら、やはりその首都圏の企業の方は大変関心を持っていただいている、後のG I G Aスクールの方にも関係しますが、要は、地方でキャリア教育とかいっても外部との関わりが限られているのではないかと、いくらでも首都圏の企業が出向いてお手伝いをさせていただきますっていう、声もいただいています、本当に多分地方の教育といますか、やっぱり妙高ならではのそういう取り組みには関心をいただいているなというふうに思っていますので、またぜひ進めていただければというふうに思っております。ありがとうございます。

3つあるので、とりあえず先に進めさせていただいて、G I G Aスクール構想について、それでは引き続き、こども教育課から説明をお願いできればと思います。

○松橋こども教育課長

それでは続きましてG I G Aスクール構想についてご説明させていただきます。

まず「基本方針」ですが、先ほど「イェナプラン教育」の中でも触れました児童生徒の知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「個別最適化された学び」の実現に向けて、1人1台端末をはじめとしたI C T機器を活用し、より良い学びを生み出すような学び合いの環境を整え、子どもたちの確かな学力の育成を図るものです。「活用についての基本的な考え方」としては、令和3年度から本格的に1人1台端末を導入し、学校での授業をはじめ、家庭での調べ学習やA Iドリルを活用した自己学習、さらにオンラインを活用して他の学校や海外の学校との交流学习、臨時休業時や不登校児童生徒のオンライン学習などで活用しています。これらの「環境整備」については、学校内にW i - f iを整備し、安定して使用できる環境を整えるとともに、フィルタリングサービスを導入し、不適切なインターネット上のコンテンツや、ウイルス感染を目的とした悪意あるコンテンツへのアクセスを制限しています。また、デジタル教科書については、教員の指導用の教科書を導入し、その効果を検証するとともに、教員の授業準備にかかる負担の軽減を図っています。教育用ソフトウェアについては、令和3年度に無料トライアルで使用した「ロイロノートスクール」というクラウド型授業支援アプリを今年度は正式に導入して、情報の検索や共有・発信、無料アプリを活用した学習、Z o o mを活用した遠隔交流学习などを行っています。また、各学校でA Iドリルの無料トライアルを行い、紙教材との使い分けや費用負担について検討を行っています。W i - f i環境のない要・準要保護世帯に対しては、W i - f iルーターを貸与して家庭学習に支障が出ないように配慮しています。最後に「教員の研修」についてですが、妙高市教育研究会や上越教育大学と連携してZ o o m管理者研修会、ロイロノート・スクール活用研修会、授業研修会などの教職員研修を年10回程度を実施し、教職員のI C T活用スキルの向上を図っています。また、サポート体制については、情報教育推進員2名を配置し、I C T機器の管理やメンテナンス、活用方法等について、学校のニーズに応じた支援を行っています。その他、今年度から学校I C T支援員業務委託として専門事業者へ委託し、学校のI C T機器の管理、保守を維持して、教職員、児童生徒が円滑にタブレット端末等を活用できる体制を整えています。「G I G Aスクール構想」についての説明は以上になります。

○城戸市長

ありがとうございます。それではこれについてもまたご意見をいただきたいと思いますが、G I G Aスクール構想の今、目指すべき終着点っていいですかね、それは当面のところはどこまでやるのか、教えていただきたいのですが例えば、ドリルを入れて、という形、それはだからまた次はこういう形を考えているとか、妙高市のG I G Aスクール構想って、こういう段階を踏んで、ここまでやっていくという様な構想があるのか。これは例えば全国的に指導要領とかで、1人1台でこの程度という言い方は変なんですけど、さっき言った世界に飛び出していただきたいとか、日本で活躍していただきたいっていう、大きな可能性を秘めているかと思っているので、これがもしわかりましたらお願いしたいと思います。

○川上教育長

このG I G Aスクール構想が出たのは私が就任した後ですけど、よく話をするんですが、私は衝撃的な出会いがあったんです。それは、13人の中学生をスイスのグリーンデルワールド村と、ツェルマット村に連れて行った時に、それぞれの学校を訪問したんですね。

人口規模からいったら妙高市よりも小さい観光都市ですが、両方とも中学生、小学生が、1人1台の端末を持ち、そして、一斉授業ではなくて、ここの課題に沿ってどんどんその端末を使って、授業、学習を進めていく、先生は何をしてるか、サポートする、そして黒板はない。何があるかという、電子黒板なんです。そして電子黒板を使って、昨日のポイントはここだったよねってポッポッと触って、昨日の画面がピッと出てくるような形になって、そういうのを使ってやっているんですね両校とも、一緒に行った13人も驚いてました。帰ってきて、これは駄目だと、これは日本はまだ全然駄目だと思っていたちよūdその時にG I G Aスクール構想が出てきて、1人1台端末が、国の政策によって、そこに乗じて、もうどんどん進めるしかないだろうと思って、担当に話をしたり、それからより専門的な指導を受けたりといったようなことを今行っている状況です。ですので、今市長さんが言われたところの部分の行き先、行き着くところってのは最終的には、先ほど申し上げたような1人ひとりの子どもたちが、自分の力で、学習をしていく、命令ではなくて、教員の指導ではなくて、自分で考えて、教員のサポートを受けながら、自分の力で学習をしていく、判断していく、決定していく、自己決定力っていうんでしょうかね、指示を受けなくてもちゃんと自分で行動できる学習できる、学べる、見たいもの、やりたいものは、興味があったらどんどん学んでいく、そういうような姿勢にするためにはどうしても情報が必要です。その情報、もちろん、本でもいいし、資料でもいいんですけども、教科書でもいいんです。ですが、もっともっと活用できるのはやっぱりICTだと思っていますので、そういった意味でのそこを充実させるってことは、やっぱり子どもたちに最終的に結びついていくし、最終的にはもっと言えば、妙高市や、県外や国や世界に羽ばたいていって活躍できる、そしてやがて妙高市を思って帰ってきたり、妙高市に観光に戻ってきて家族を連れて行きたいっていったような郷土愛にもつながってくるはずなので、そこを最終的には目指したいなと思っています。

○高澤委員

1人1台タブレット端末をいただくようになってから、孫たちの学習が少しずつ変わってきたなっていうふうに感じます。コロナに罹ってですね、外孫ですが、1週間なり休まなきやい

けない時に、新井小学校なんですけど、6年生と4年生の子どもたちに、担任の先生が、タブレットを使って、やりとりが聞けたり、あるいは授業の様子をタブレットで映し出してくれたりっていうようなことをしていただきました。これで随分、1週間休んでいても、孫たちは学校と、あるいは先生とつながっているというのを感じていたようです。

やっぱりそういうことをしながら少しずつ子どもたちの学びが変わっていくのじゃないかなという期待をしています。そして教育委員会や市の方で機器なりを全部整備して、放り投げではなくて、そのあとのケアが妙高市はよく行ってるなと思っています。今日もお話しいただいたんですが、他校との遠隔学習のソフトを入れて頂いたり、そんなことをやりながら、単なる機器をそろえるだけじゃなくてそのあとの教員の研修のサポートとかですわそういったことも含めて、サポートしていただくのは本当にありがたいことだと思っています。

やっぱりそこら辺も考えてやらないと、機器だけ用意、タブレットだけ用意してあとはやりなさいでは駄目だろうと、そんなふうに思っております。大変ありがたいことだと思っています。これからも現場の方で、こういうアプリが欲しいとか、もう少しこういうものが欲しいという要望を聞きながら、ぜひ一緒になって子どもたちの学びを広げていただけたらと思っております。

○小嶋委員

小学校とか行ってみると、思った以上にタブレットは活用されていて、本当に皆さんびっくりされると思います。うちの子どもがオンライン授業を受けた時も、もう本当におかげさまで、学校にいるときと同じような時間割で規則正しく、家で勉強することができて、やっぱりこういった意味でもすごく、例えば病気のお子さんとかいろんな事情で学校に行けないお子さんに関しても、いいことだと思った反面、今の段階ではやっぱりオンライン授業をすとか、タブレットを活用するっていうところに焦点が当たっていて、本当に例えば、黒板がよく見えているのか、みんなの声が聞こえているのか、こちらからの発信が伝わっているのか、先生からオンラインしてる子どもたちの理解がどうなのかっていう総合的なことの評価までは行ってないように感じます。

高校生なんか見ても、あの先生はプリント上の授業だから、聞いても仕方ないんだよなって、でも黒板見ても黒板が見えないんだよみたいな、出てもしょうがないみたいな感じで。今までは、やってることにちょっと意義があったかと思うんですけども、これからはその授業の質だったりとか、オンライン授業に関してですけども、質だったりとか、その効果について検証を進めていかなければならないかなというふうに感じています。

あともう一つ全く別の側面なんですけども、小学生中学生の荷物が本当にすごく登下校時重くて、それは昔から問題として、教育委員会でも上がっているんですけども、それを学校に問うと、使わない日の教科書は置いてもいい、置き勉はOKとしていますっていう回答しか返ってこないんですが、その置き勉だけではとても対応しきれないほど重いんです。全くそこから何の進歩もしてなくて、今さらにタブレットが加わって、さらに重くなってるんですけども、これが例えばデジタル教科書の導入とか、例えばノートの代わりに使えるとか、何か先生との連絡をタブレットでやりとりできるとか、そういったことができるようになってくると、もしかして子どもたちが腰を曲げて長い道のりを、通わなきゃいけない、それを果たして本当

に大人が例えばやったときにできるかっていったときにできないような状況が、改善されるのではないかなというふうに感じております。

○近藤委員

私も最初にこのGIGAスクール構想があって、1人1台端末をもらうっていうことで、教育委員で、学校訪問を年に2回ほどさせていただいているんですけど、最初のうちは全くこのタブレットがあるとか、GIGAスクール構想といっても授業でそれを見なかったというか、あるねっていうぐらいでした。でも半年後に行くと、もうどんどんその学校で使うようになっていて、この間見たときにはほとんど活用しているというか、授業の中で必ずタブレットを開いているというぐらいに子どもたちの方が素直にどんどん、活用できていて、それに伴って先生たちも多分研修はすごく大変だと思うんですけども、頑張っていらっしゃると思います。

子どもたちは生まれたときからスマホなりタブレットがあって、何も苦にすることなくさわるができるんですけれども、大人はやはり、なかなかその機器ですね、タブレットとかっていうのをちょっとよくわからないっていうのもあるし、先生たちも多分年配の先生たちは大変だと思うんです。研修を積んでいただきたいというのと、あと、親御さんですね、親御さんの話を聞くと、実際に家でオンラインでやっているんですけども、本人、親御さん自体がロイロノートとかのアプリが、どういうふうにやってるかっていうのも知らない状態で、どうなんだろうねっていうのをよく聞くので、何かやってみたいだわ、ぐらいな感じだと。そこら辺をもう少し親御さんとか保護者にも、いろいろ今こういうアプリ使ってるんですけども多分言っただけではいらっしゃると思うんですけど、理解されてる方が少ないと思うので、もうちょっと周知というかそういうのをやっていただきたいなと思って思います。

大人はスマホを持ったときに何も使えなかったのが、今普通に使えるっていう感覚で、だから先生たちも多分今はロイロノートのアプリこれだけいろいろやれることがあるのに全然使えてないわって思っただけじゃあも知れないですけども、研修を重ねてどんどんそれが熟練されて、もう何も考えることなくずっと授業で使っていけるっていう、そういう未来をあと1、2年後には、多分学校訪問で見られるかと思うので、期待しております。

○小島委員

近藤さんとちょっとかぶってしまうんですけど、やはり基本的な考え方の中に教職員の働き方改革の推進というような一考があるんですけども、これについて言えば、やはり教員の意識改革っていうのは非常に大事なんだろうなというふうに思っています。

先ほど、課長の方からも話がありましたとおり、順次研修については一生懸命に取り組んでるというふうに認識しております。従って引き続きですね、スキル向上、情報教育推進員ですか、そうした部分を充実しながら、やはり先生がある程度、レベルが上がらないと多分子どもも戸惑っちゃうだろうなというところもありますので、ぜひその辺の先生方のレベルアップのために、もう少し場合によれば、単独でもですね、必要があれば推進の充実とかそういった部分の中に、市の方からも目配りをしていただければなというふうに思います。

○城戸市長

これも先ほどのイエナプランともちよつとつながるかもしれないけど、G I G Aスクールだと多分、正直私もそうですけど若いころは、順応が早くて、先生は昔で言う、コーチというか、サポートですか、それとも教えてるといふ言い方がいいのかちよつとわかりませんが、この辺はどうですか。

○川上教育長

教員はですね、基本的には最初はやっぱりこの使い方を含めて、どういう形でこの機器を使ったら、どういう効果があるからどういう方法がいいかなっていったようなことを子どもたちに一応教えるっていう形は当然出てきます。使い方も含めて、方向性、目的をきちっと教えて伝えてあげれば、本当に子どもはよく順応しているし、わからない子にわかる子はちゃんと教えているし、取り残されるのは教員だけみたいなの、というような状況もないわけではないです。

そういう状況の中で先ほどのお話の中であつたように、教員も必死です、本当に妙高市の教員は、本当によく頑張ってくれていると思います。教務室の中でそういう会話が自然と発生していて、今日こんなことやったらこんな効果があつたよってというのが自然に出てくる。そういうやりとりが出てきている学校は本当に多くなつてきているということで、他市や他のところと比べたらつとつという言い方は良くないかも知れませんが、そういうムード、雰囲気ってのはすごくよく出てきていますし、高まっているというふうに思っています。

○城戸市長

ありがとうございます。これもまた時間を設けてじゃないですけど、私もできたら学校にお邪魔させていただいて、実際に見させていただければありがたいなというふうに思っております。

それではちよつとまた時間の都合もありまして3番目の、まなびの杜についての協議に入らせていただきます。それでは生涯学習課の方から説明をお願いしたいと思っております。

○平井生涯学習課長

それではお手元に配布しました資料に基づいて説明させていただきます。

令和4年度妙高はねうまカレッジまなびの杜につきましては、基本講座ABC3コースに分かれて実施いたしました。それぞれ5回コースで、Aコース23名、Bコース21名、Cコース12名、合計56名の方から参加していただきました。裏面はぐっていただきますと、オンラインコースというのがございます。こちら基本講座の中の座学につきまして、9回Zoomによるオンライン配信を行つて、受講していただきました。9名の方から参加していただきました。続きまして指導者養成講座につきましては、自然環境部門の講師先生方の非常に高齢化が進んでおまして、次の指導者を育成・養成する必要があるということで行つた講座でございます。今回は8名の方から参加していただいて、うち、5名ぐらひは、次年度以降、講師補助者として、ご活躍いただけるのではないかとつとつというふうに思っているところでございます。

次のリカレント講座につきましては、妙高市で必要とする人材の資格取得のきっかけづくりとして行いました。大人の学び直しという形で講座を実施しているわけですが、その中でも保育と介護につきまして、人材が不足しているということで、きっかけづくりの講座を行

いましたが、残念ながら9名の方しか参加していただけませんでした。

講座実施後、YouTubeで配信をしております、そちらの方は再生回数が12月22日昨日現在で、保育が132回、介護が187回、ご覧いただいております。それから、オープンカレッジにつきましては、開校式、それと閉校式につきましては、一般市民の方にも、無料で参加していただけるようご案内申し上げました。66名の方からご参加いただいたところです。合計延べ31回のコースで参加者は148名ということでございました。以上です。

○城戸市長

ありがとうございます。私も今の立場になって、何か本を読んだり、学ぶというかな、新しいことを気づくのがなんか最近楽しみになってきているんです。はねうまカレッジって、そういう、きっかけづくりになればいいなと思っているんですけど、多分、課題も幾つかあるんだろうなと思っています。時間帯の問題とか、あと参加者は、今言ったこの参加者23名が、すでに、例えばAコースBコースCコースで、同じような人たちが、入っているんじゃないかなとか、これは本来、実人数でこうですってなるのが、本当は妙高にとっても一番ありがたいと思っていますし、その辺のところはちょっとどうなのかなってということで、まず実態を教えてくださいなと思います。

○平井生涯学習課長

参加状況ですが、Aコースにつきましては、大体8割程度の参加をいただいたんですが、3回目の男女共同参画講座につきましては夕方から夜にかけての時間帯ということで、出席者数が、7名ということで少なかったと、それからBコースも同様に、2回目の環境講座これも夕方夜にかけての講座ということで、参加者が少ない、Cコースの2回目の男女共同参画、これは事業所の皆さんにも見ていただきたいということで日曜日の開催にしたんですが、それも参加者が非常に少なかったというような状況がございます。

日中ご家庭にいるような年代の方が受講されてることが多くて、働いている世代若い方の世代っていう方々が、こういった講座への参加が少ないという課題があります。

それから、どうしても場所について私どもも妙高や妙高高原でも実施するようにしていますが、主会場が、新井の勤研センターということもあって、新井の方の参加が多いんですが、妙高や妙高高原からの参加者が少ないという課題がございます。それで、オンライン講座をやりながら、サテライト会場もそれぞれの地区に設けてはいるんですが参加申し込みがないといったような状況でございます。

○高澤委員

実態としてですね、最初まなびの柱を始めたときは、自然コースとか歴史文化コースとか、いくつか分けたと思うんですね。それが、今年度からですかね、こういう万遍なくといったらいいか、歴史が入っていたり自然が入ったり、いろんなところが入ってきて、まぜながらやっているんですが、そこら辺の意図は特にあったんですか。私もちょっとまなびの柱に関わったことがあるんですが、そのときは、例えば私前半の方に出たんですが、いつも同じような人ばかり来ていましたけど、そこら辺の実態はどうなのか。

○平井生涯学習課長

自然環境、歴史文化、それと人まちコースの3つのコースで、以前はやっていました。そうすると、自分の興味があるコースには参加されるんですが、どうしても人まちコースのような人権、男女共同、防災だとか、そういった地域の課題に結びつくような、講座について参加者が非常に少ないということがあり、SDGsの推進ということもありましたので、こちらの意図する講座を受けていただくために、それぞれの講座に織り交ぜて、そういった課題にも目を向けていただく機会にしたということで構成を変えたところです。

○高澤委員

受講生の中で、私はこっちの方がよかったのについてというような意見はなかったんでしょうかね。自然だけがよかったとか。

○平井生涯学習課長

今回修了証各講座ABC各コース8割以上の参加で、修了証をお渡しし、その修了証を3枚取得すると、妙高人手形を渡しています。それは前と同じく継続しているんですが、今回ABCコースすべてに参加された方がいらっしゃって、その方は皆勤賞で、すべてのコースで全部5回参加されています。非常に興味関心がある方は、いろんなコースに参加されているといったような状況もございます。

○城戸市長

私の感想というか、市でやってる事業で自分の感想も何もないんですけど、私は学びたいという欲求というか、やはり自分が興味のある事項には多分行かだろうというふうに思っています。市民の方が、これから人生ずっと学びたいと思ってもらえるような習慣づけるためには、やはり本来は、講座はあるテーマに絞ったような形の中でやる習慣をまずこの地域にはつけていくことの方が、私はいいかなっていうふうに正直思っています。

先日にも丸山先生のZoom会議でちょっと研修させていただくようなイェナプランとかいろんな教育を聞かせていただいた時に、やはり教育に関心のある方が集まってきていただいているし、そういうところから広がって行って、学ぶ習慣をつけていくことが、生涯学習の一つかなと自分では思っております。

私の意見として、今この万遍なくってという形を聞くと、さっき言われた、ちょっと介護となると、関係ないに行かなくていいかなと思ったりしてしまうかなと思います。あともう一つこのリカレントってというのは非常にネットとかでも騒がれているけど、学び直しとなると、やはり時間带的には社会人の人を対象にさせていただくってというのが本来の筋だと思うなかで4時半はちょっと無理なんじゃないのかなとは思いますが、この辺は改善すればいいかなと思ってるんですけど、私はその生涯学習という意味では、高澤教育委員さんが言われたコースの作り方みたいなのも、もうちょっと工夫していただけたらいいかな。正直、興味のないテーマは評価が少なくとも私はやっていけばいいと思ってるので、やることが大事で、集まってきた人に、関心を持ってお話しできれば、また口コミで広がっていくっていうのが、長い目での生涯学習のあ

り方かなというふうに私は個人的に思っています。なにか意見があればお願いします。

○小嶋委員

そうですねやっぱり講座を見ると、どうしても歴史とか自然とか、人権とかそういうところがずっと続いていて、もう少し年齢層の若い人たちが参加してみたいと思うような、講座があればいいのかなというふうに感じております。

議会の方でも岩崎議員さんが、女性のデジタル人材育成できるような講座を設けてはどうかというような発言されていますけれども、やはり先ほどの子どもたちのタブレットに大人がついていけないじゃないですけども、そこに追いつくためにも、何かそういった機器に関しての講座だとか、そこからまた就労に結びつくような講座があれば、もう少し若い年齢の方たちも参加していただけるのではないかとこのところで、講座の見直してというのは、必要というふうに思っております。

○近藤委員

このリカレント講座っていうもの、私はY o u T u b eを見てみたんです。保育の1時間半ですよ。正直言って131回の再生回数があったっていうのはなるほど皆さんそれなりに興味がおありなんだと思う。実際に参加された方、合わせて9名の人数からすると、多いなと思って私みたいな人もいらっしゃるんだなと思ってみたんですけども。その中でやっぱりすごく優しくて丁寧なんですけれども、なにせ時間が長すぎると思ったんですよ。家で見るにはっていうか、実際講座もそうだと思うんですが、もう少しせっかくリカレントで高校生とかにも来てもらいたいとか、見てもらいたいなっていうのであれば、将来保育士になりたいとか、そういう方をというのであれば、もう少し短くして内容を絞った感じで、これは1回なんですけど1回ではなくて、数回に分けて、保育園の紹介や仕事はこれっていうところを、Y o u T u b eで流していただけるとこの内容を見て、次も見たいとか、シリーズで見たいってなと思います。来てもらう講座もそうなんですけど、132回とか187回っていう再生回数を見ると、そういうニーズもあると思うので、そこら辺をもうちょっと考えて、やり方を変えたらきっと私ももうちょっと見るかなと思います。

○小島委員

学びたい意欲のある方は、少々遠くとも出てくると思うんですね。ところが、私ども、今妙高地域にいますと、なかなかこれに来るかっていうことになるとそのまでの興味がどうもない、じゃ地域はどうなのかっていうことを見ますと、ほとんどこうした学習といいますかねこういうふうな部分の中で話を聞かっていうのは機会が非常に少ないんですよ。かつては、それぞれの年齢での集まりっていいですかね子どもとか、ご婦人とか老人とか、そういう部分の中でそれぞれの活動の中で、生涯学習に近いような学びみたいなものをやってきましたんですけど、今そういうものがない。地域の中では、集まる場所がないのでそれを何とかしないといけないというも課題には上がっている。そういう皆さん方もNPOあたりが中心になっていろいろやり始めてはいるんですが、じゃあ何をやるのっていうところあたりで大分戸惑ってるところもありますので、できればそういう皆さん方にちょっとアプローチをしたりして、中央から離れ

ますけれども、何か地域を少し、そういうところで、こうしたものに取り組むというのも一つの取り組み方かなというふうに思っています。

○城戸市長

これから、新図書館等複合施設を市で整備をしていきます。そこで生涯学習という機能を入れていこうということでやっていますので、今まなびの杜という形でやっている生涯学習のあり方というのを、ここ2年から3年間の間で、もう一度ちょっと作り直していただいて、多くの人が学びたいと思う心をつくるのはなかなか大変だと思いますけれども、そういうきっかけづくりを与える一つに、ここ数年でしていかなければいけないなというふうに思っています。

小島委員さんから言っていたように、地域に出向くという言い方がいいかわかりませんが、そういうことも必要になってくるだろうし、その辺をちょっと今公民館ってというのが、実は市に名前だけあって形がないような状態で、その公民館という本来のあり方も今のまなびの杜では担っていただいているんだろうと思っていますけれども、そこを、また皆さんの意見を聞きながら、作り直していかなきゃいけないかな、というふうに改めて感じさせていただいております。

○川上教育長

皆様方おっしゃる通りの部分がすごくあって、生涯学習課長さんや生涯学習課の方では、もうすでに動き始めているんですが、やっぱりニーズはあると思うんですね。それをどうどこまで広げてどうやって集約するかというのは、全市民にやるとものすごい手間もかかるし大変だと思うんですが、やっぱり生涯学習の学びについても、ある程度何について学んでみたいですかとか、行ってみたいですかっていったのは、この調査が必要なんだろうなというふうに思ったからです。

リカレント教育についても市民からちょっとアンケートをとって、学びたいと思っているものについて、講座を設定してみようという動きが生涯学習課にも出てきていますので、まなびの杜についても、そういう形でニーズにこたえていくような講座を用意していくということも、当然今までやってきたんですが、それ以上に、深めていくためには必要になってくるかなというふうに思っていますが。課長さんそうですね。

○平井生涯学習課長

今回リカレント講座を開催し参加者が少なかったということで、リカレント講座についてどういったテーマを望んでおられるのかなという調査をするため、11月の1日から20日までインターネットを使い、簡単なスマホで回答できるアンケートを行いました。

回答者は27名ですが、一番回答者として多かった年代が50から64が11人、30から49歳が7人、65から74歳が7人ということでした。あと、取り上げて欲しい内容について複数回答で回答していただいたところ、一番多かったのが、料理、栄養学、食育が18、それから自然歴史などのガイドが14、ITスキル資格が13、英会話12といったようなことでありました。この間の議会で岩崎議員さんからもIT資格を取れるようにというご提案もありましたけれども、来年度、そういったIT関係の講座のきっかけづくりみたいなもの

も、取り組んでいけたらいいのではないかというふうに考えているところです。

○城戸市長

ありがとうございます。公民館もなくてなかなか大変だというのは、まず十分承知もしています。次にちゃんと進めるような形の中で、進歩とか進化していただけることがやっぱり生涯学習には大切だなど思っていますので、ぜひ進めていただきたいというふうに思っております。

限られた時間の中で、3点お話をさせていただいて参りまして、何かこの機会に皆様からあれば、これ以外のことで、なかなか皆様とお話する機会も少なくて恐縮ですが、あればお願いしたいと思っております。はい、お願いいたします。

○高澤委員

今日は市長さんと、貴重なお時間をいただけるということで、お話させてもらいたいのですが、市長さんは公約で給食費の無償化を訴えられて、私たち非常にですね、関心を持ち、本当に実現できるかどうかというところもあるんですが、若い子育ての人達は非常に喜んでおります。

ただ議会で、ちょっと後ろ向きの発言をなさったのじゃないかなという、そういう不安もですね、広がっているのは事実であります。財源の問題もあると思うんですが、ぜひ、段階的にでもですね、あるいは、少しでも前の方に進めていただければありがたいなと思ってるんですが、どうでしょうか。

○城戸市長

基本的には私は、スタンスは変わっていないというふうに思っていますし、自分の中では最初に志したことを貫徹させていただきたいというふうに考えております。実現できるようにしたいというふうに思っておりますし、それもできるだけ早くというふうに思っております。本当ははっきり言えばいいんですけど、なかなか言えないことだけご了承いただきたいと思っておりますし、あわせて公約の一つである子育ての形について、こども家庭センターをぜひやりたいということで、お話をさせていただきました。

こちらにいらっしゃる川上教育長が大変ですが、計画を今作っていただいておりますし、選挙中は妊娠期から子育てまでという話をさせてもらいましたが、今、こども教育課と話している中では、妊娠期から子育て、さらに教育まで一貫した中でサポートができるような、本当に子育てしやすいまちといいますか、やっぱり人を育てられるまち妙高を、つくっていききたいというふうに考えております。これは、後ろ向きな発言ではないということでご理解いただければと思います。

○高澤委員

妊娠から子育てまで、切れ目のない支援をしていただいて、ぜひ、他のところからですね妙高市に住みたいというような人をどんどんふやしていただきたいですし、少子化を食い止めていただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○城戸市長

よろしいでしょうか、なければ、冒頭言いましたように、川上教育長から、教育、教育しか言われていませんので、皆さんが、年2回の学校訪問等であるように、私もイエナプラン教育とか、GIGAスクールとかを目にしていませんので、ぜひ、また一緒に見させていただきたいと思っておりますし、教育で言えば、子どもだけでなく、大人の教育、学習、生涯学習という点も含めて、やはり妙高市で人を育てていけるようなところを目指させていただきたいと思っております。それでは、議長を降ろさせていただきます。ありがとうございました。

○吉越総務課長

皆さんありがとうございました。次第の5のその他ですけれども、特に事務局の方からご用意しているものはございませんが、何か皆様方からおありでしょうか。

大丈夫でしょうか。はい。特にないようですので、以上をもちまして、終了させていただきたいと思いますが、市長との意見交換ということで、大変有意義な時間が持てたのではないかなというふうに思っておりますので、また今後とも、こういった形で総合教育会議の方よろしくお願いいたします。大変ありがとうございました。